

日清・日露戦争期に臨時測図部が中国大陸で作製した地形図（大阪大学蔵）

—解説と目録—

解説：小林 茂

目録：小嶋 梓・多田隈健一・顧 立舒

日本陸軍と陸地測量部は、日清戦争期に数百人規模の測量要員からなる「臨時測図部」を編成して、1895年2月～1896年8月に朝鮮半島・中国大陸・台湾の測量をおこない、地形図を作製した。またその後も小グループの測量要員を朝鮮半島・中国大陸に断続的に派遣し、日露戦争期の1904年6月になると再度「臨時測図部」を編成して、朝鮮半島と中国大陸で測量をおこなった。この活動は、日露戦争終結後も継続され、1913年3月によりやく終了することになった（小林2011: 97-109, 136-158）。

日清戦争期に編成された臨時測図部は第一次臨時測図部、日露戦争期に編成された臨時作図部は第二次臨時測図部と呼ばれ、東アジア地域で日本がはじめて本格的な測量活動を大規模におこなった組織として、その実態が注目される。またこれによって作製された地形図についても、初期の大縮尺図として、とくに韓国や台湾で研究が開始されている。本稿掲載の目録はこうした研究状況をふまえて準備されたもので、以下では現在までほとんど検討されていない中国大陸に関するこの時期の地形図の一部を紹介するとともに、それを通じて、この時期の臨時測図部の活動を検討してみたい。

以下、まず臨時測図部に関連する資料について紹介したあと、この時期に作製された地図に関する研究をレビューし、これをふまえて目録掲載の図の特色を検討する。

1. 第一次・第二次臨時測図部の活動に関する資料

日清・日露戦争期の臨時測図部に関する資料として最もまとまったものは、『外邦測量沿革史 草稿』（小林解説2008a; 2008b: 1-252）に掲載された各種文書類の写しである。これは、1907年頃以降臨時測図部に通訳として勤務した岡村彦太郎が、支那駐屯軍囑託として、1936年以降に編集したもので、原資料をよく反映すると考えられるが、とくに日清戦争

期と日露戦争期については断片的なものにとどまっている（小林2009）。岡村が編集に着手した時点で、すでにこの時期の臨時測図部に関する資料の多くは失われていたとみるべきであろう。

これを補う重要資料が、岡村も参加した「外邦測量の沿革に関する座談会」（1936年）における古参の測量技術者（測量師）および陸軍将校（藤坂松太郎）の回想で、アジア歴史資料センターがインターネットを通じて公開している（Ref. C04121449200）。類似の座談会は1944年はじめ頃にもおこなわれ、「明治三十七八年戦役と測量」というタイトルで、陸地測量部の内部雑誌であった『研究蒐録 地図』に掲載された（野坂ほか1944）。ただしこれは、日露戦争期に焦点を絞っている。

その他の資料として挙げておくべきは、『陸地測量部沿革誌』（陸地測量部1922）と『外邦兵要地図整備誌』（高木著・藤原編1992）となるが、編年の記載を主体とするため、第一次および第二次臨時測図部関係の記載は多くない。また、『明治廿七八年日清戦史、第8巻』（参謀本部編纂1907: 131-134）には、短いながら日清戦争開始期の陸地測量部から第一軍と第二軍に派遣された測量班と第一時臨時測図部の活動経過を示している。

以上のような資料の状況を考慮すると、この時期の臨時測図部の活動に対しては、その作製図も重要な手がかりになることが理解される。各図幅の測図時期や精度を検討することにより、その実態にアプローチできるわけである。

2. 第一次・第二次臨時測図部の作製図に関する従来の研究

第一次・第二次臨時測図部が作製した地図の研究においては、まず清水靖夫のパイオニアの仕事（清水1982; 1986; 2009a; 2009b）が重要である。おもに国立国会図書館に収蔵されている地形図を丹念に

調査し、台湾と朝鮮半島におけるこの時期の地図の概要を把握した。この場合、同時期に中国大陸について作製された地図について検討されていないのは、国立国会図書館にそれがほとんど収蔵されていないことによると考えられる。

他方台湾では、黄武達が台湾における地図作製史の概要を解説するとともに、『明治廿七八年日清戦史、第7巻』（参謀本部編纂 1907）の付図などを手がかりに日清戦争とそれに続く時期の地図を探索して、都市部の2万分の1地形図（臨時測図部・陸地測量部刊）の一部についてリプリントを刊行した（黄 1996a; 1996b）。台湾ではまた、魏徳文の精力的な古地図の収集も重要である。この収集資料と清水の研究をふまえて、林（2005）は、この時期以降の台湾に地図について概観した。これらの研究は、日本統治期の台湾の地図について広い視野から検討する『測量台湾—日治時期繪製台湾相關地図 1895—1945』の記載にも反映されている（魏ほか 2008: 22-30）。これらに基づきつつ、さらに黄清琦は、日清戦争期とそれに続く時期に作製された地形図に焦点を当て、残存する図を探索するとともに、多面的に検討する論文を発表している（黄 2010）。

韓国でも、清水靖夫の研究（清水 1986）をふまえながら、南榮佑が日清・日露戦争期に朝鮮半島について作製された地形図である「略図」のリプリントを『旧韓末 韓半島 地形図』というタイトルで刊行している（南編 1996）。これに付された解説の和訳は、すでに『外邦図研究ニューズレター』4号に掲載しているので参照されたい（南 2006）。南らはその後も関連する論考を発表して、その今日における学術的意義を検討している（南・李 2009）。

一方、谷屋郷子（現姓岡田）は、陸地測量部にあった外邦図をうけつぐ外邦図コレクション（現在は自衛隊中央情報隊所管で非公開）の目録（国土地理院蔵の『国外地図目録』と『国外地図一覧図』）を使って、測図年の記されていない上記「略図」の測図年を示した（谷屋 2004; 岡田 2009）。これによって、朝鮮半島における日清・日露戦争期の日本による測量活動の展開の概況が把握できることとなった。

台湾と韓国におけるこの時期の地図の研究で共通するのは、土地調査事業に基づいて作製された地形

図（臨時台湾土地調査局による「台湾堡図」[2万分の1]や朝鮮総督府臨時土地調査局による5万分の1図）をさかのぼる時期の地図とこれらを位置づけ、その学術的意義を評価しようとしている点である。土地調査事業によって作製された地図に見える景観は、すでに植民地統治のさまざまな政策が反映されているのに対し、日清戦争期とそれに続く時期の地形図には、植民地統治開始以前の景観を広範囲に示すものと考えられているわけである。

このような点で、この時期の地形図は、それぞれの地域の地図史のなかで独自の位置を占めていることが強く意識されていることがあきらかである。この点は中国大陸に関する地形図についても同様と思われるが、さらに検討を要するところである。つぎに本稿の目録に示す地図について、特色を述べたい。

3. 日清・日露戦争期に臨時測図部が中国大陸で作製した地形図の特色

本稿の目録に示す地図は、4つの地図群に分かれているが、いずれも同一の古書店から購入したもので、紙質や印刷はよく類似している。印刷は全体に粗く、漢字地名につけられた、現地での発音を示すと考えられるルビが読みにくい場合が多い。とくに『明治廿七八年日清戦史』にみえる、同一地域の付図（2万分の1図で、基本的に同じ原図によったとおもわれるもの。ただし漢字地名にルビを付さない）と比較すると、その粗さがめだつ。

4つの図群は、「二万分一得利寺近傍」、「二万分一大石橋及蓋平近傍」、「九連城近傍」、「二万分一遼陽近傍」で、いずれも縮尺は2万分の1である。このうち「二万分一大石橋及蓋平近傍」と「九連城近傍」については、日清戦争期に測図されたものを含むが、「二万分一得利寺近傍」と「二万分一遼陽近傍」ではすべて日露戦争期に測図されたものになるのは、日清戦争に際して、得利寺や遼陽付近では戦闘が行われなかったからと考えられる。

各図群に付された番号から、いずれの図群についても欠落している図幅があることがわかるが、幸い1940年3月発行の「外邦局地図一覧図（其一）」（大阪大学蔵、小林・長谷川・波江 2010: 58 参照）には、全13（ただし延べ15）の2万分の1地形図群の一

覧図が掲載されており、上記4図群も含まれている。これによって4図群の全貌が把握できるが、以下ではまず全13の図群について紹介しておきたい。

- (1) 北樺太アレキサンドロフ近傍
- (2) 山海関近傍
- (3) 威海衛近傍
- (4) 天津近傍
- (5) 保定近傍
- (6) 漢陽以西漢水右岸地区
- (7) 香港近傍
- (8) 遼陽近傍
- (9) 得利寺近傍
- (10) 鳳凰城近傍
- (11) 九連城近傍
- (12) 拆木城近傍 大石橋及蓋平近傍 營口近傍
- (13) 海城近傍

これらの地名をみると、北樺太・山海関・威海衛・天津をはじめとして、日清戦争期～日露戦争期に戦闘あるいは地図作製がおこなわれたことが確認できる地域が少なくない（小林 2011: 93-109, 121-158 参照）。これらについて、ひとつひとつ検討する余裕がないが、2万分の1地形図が、この時期広く作製された可能性があることを指摘しておきたい。台湾では5万分の1図のほか、2万分の1図が広く作製されているし（黄 2010）、朝鮮半島でも北東部について日露戦争直後に2万分の1地形図が計171図幅整備されている（清水 2009b: 179-181）。またこの時期には、日本国内でも2万分の1の縮尺で地形図（正式二万分一地形図）の整備が進められたことも関与している可能性が大きい。

さて、上記「外邦局地図一覧図（其一）」所載の一覧図を参考に作成したのが図1～4である。これらで網掛けを施しているのは、購入した地図に含まれていなかったものである。「二万分一得利寺近傍」をのぞいた3図群については、ほぼ全図幅がそろっていることがわかる。

このうち「二万分一大石橋及蓋平近傍」と「九連城近傍」には、すでに触れたように、日清戦争時に測図されたものが含まれているが、日露戦争時に測図されたものも多く、この両者については、日清戦争時の測図を核に、日露戦争時に測量域を拡大した

⑮ 趙家屯 (不明, 1905)	⑪ 陳家屯 (不明, 1905)	⑦ 得利寺 (不明, 1905)	③ 四平街 (不明, 1905)	
⑮ 榆樹房 (不明, 1905)	⑫ 金斗房 (不明, 1905)	⑨ 曲家店 (不明, 1905)	④ 梁家屯 (1905, 1905)	① 劉家隈子 (1905, 1905)
⑰ 南家屯 (不明, 1905)	⑬ 三家子 (不明, 1905)	⑨ 炸子窑 (不明, 1905)	⑤ 沙泡子 (不明, 1905)	② 張家屯 (1905, 1905)
	⑭ 瓦房店 (不明, 1905)	⑩ 孤家子 (不明, 1905)	⑥ 候家屯 (不明, 1905)	

図1：二万分一得利寺近傍

	⑮ 牛家屯 (1905, 1905)		⑦ 虎庄屯 (1905, 1905)	① 鄆家堡子 (1905, 1905)
	⑮ 唐旗堡 (1895, 1905)	⑬ 黃大人屯 (1895, 1905)	⑨ 大石橋 (1905, 1905)	② 平二房 (1905, 1905)
⑳ 二道溝 (1895, 1905)	㉑ 大平山 (1895, 1905)	⑭ 牛心山 (1895, 1905)	⑨ 青龍山 (1905, 1905)	③ 青寨子 (1905, 1905)
	㉒ 趙家窩棚 (1905, 1905)	⑮ 唐王山 (1905, 1905)	⑩ 李家屯 (1905, 1905)	④ 湯池 (1905, 1905)
㉓ 胡家屯 (1895, 1905)	㉔ 蓋平 (1895, 1905)	⑮ 青石関 (1895, 1905)	⑪ 沈家屯 (1905, 1905)	⑤ 高家屯 (不明, 1905)
㉕ 轉山子 (1905, 1905)	㉖ 老爺廟 (1895, 1905)	⑰ 大燠泉 (1895, 1905)	⑫ 方家屯 (1905, 1905)	⑥ 小廟溝 (1905, 1905)

図2：二万分一大石橋及蓋平近傍

⑦ 老古洞 (1904, 1904)	④ 大樓房 (1894, 1895)	① 虎山 (1894, 1896)	
⑨ 壁柴溝 (1904, 1904)	⑤ 九連城 (1894, 1895)	② 義州 (1894, 1895)	東部補足② 松山洞 (1904, 1904)
⑨ 帽魁山 (1904, 1904)	⑥ 沙河鎮 (1894, 1898)	③ 白馬山 (1898, 1898)	東部補足③ 加老洞 (1904, 1904)
	南方補足③ 立岩洞 (1904, 1904)	南方補足② 新浦 (1904, 1904)	南方補足① 替馬山 (不明, 1904)

図3：二万分一九連城近傍

⑮ 佟二堡 (1905, 1905)	⑭ 河公堡 (1905, 1905)	⑨ 南烟台 (1905, 1905)	④ 東烟台 (1905, 1905)	① 烟台炭鉱 (1905, 1905)
㉑ 大沙嶺 (1905, 1905)	⑮ 佟庄子 (1905, 1905)	⑩ 張台子 (1905, 1905)	⑤ 黑英台 (1905, 1905)	② 大窑 (1905, 1905)
㉒ 蛤蜊河子 (1905, 1905)	⑮ 遼陽 (1905, 1905)	⑪ 東京陵 (1905, 1905)	⑥ 下平州 (1905, 1905)	③ 英守堡 (1905, 1905)
㉓ 首山堡 (1905, 1905)	⑰ 早飯屯 (1905, 1905)	⑫ 峨嵋庄 (1905, 1905)	⑦ 小屯子 (1905, 1905)	
㉔ 沙河 (1905, 1905)	⑱ 羊乎勾 (1905, 1905)	⑬ 望報台 (1905, 1905)	⑨ 孫家寨 (不明, 1905)	

図4：二万分一遼陽近傍



図5：二万分一遼陽近傍図第119号「東京陵」（1904年11月測図）
の東京陵と東京城（新城）[97%に縮小]

ことが推測される。その場合、とくに九連城近傍について、第一次臨時測図部の活動開始以前の 1894 年に測図されたものがあるのは、これに先だって派遣された第一軍の測量班によるものと考えられる（上記「外邦測量の沿革に関する座談会」[1936 年]の豊田四郎と別府八百衛の回想および小林 2011:93-97 を参照）。

またこれらの 2 図群に含まれる図について、『明治廿七八年日清戦史』の付図（2 万分の 1）との対応関係をみると、多くは同一の図を原図としており、これらの地形図のための測図が戦史作製を意識して進められたことをうかがわせる。「二万分一遼陽近傍」の「遼陽」図幅に、遼陽会戦に際してロシア軍が構築した堡壘群が克明に記載されているのも、このような意図をうかがわせる。

なお、あきらかに戦史を意識したこの時期の測量として、日露戦争の旅順陥落後におこなわれた 5 万分の 1 図の測量がある。日露戦争における最も重要な陸戦であった旅順包囲戦を記念するもので、これに基づいて地形模型が作製された（藤森ほか 2011）。こうした点からも、臨時測図部の地図作製と戦史との関係については、さらに検討する必要があることが理解されよう。

以上のような図群に関連してもうひとつ言及しておきたいのは、その地形図のなかには、現在史跡として調査の対象となっている「東京城」や「東京陵」（細谷編 1991: 67-72; 承・杉山 2006）について、詳細な地図情報を提供するものがあるという点である（図 5）。このように点からも、各方面からの学術的利用が待たれる。

文献

岡田郷子 2009. 「朝鮮半島の『略図』の測図年別分布」小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会, 81.
魏徳文・高傳棋・林春吟・黄清琦 2008. 『測量台湾—日治時期繪製台湾相關地図 1895—1945』国立台湾歴史博物館・南天書局.
黄清琦 2010. 「〈1895 年台湾地形図〉之研究」『歴史台湾』1: 62-117.

黄武達 1996a. 『日治時代（1895-1945）台湾近代都市計画之研究、論文集(1)付図』台湾都市史研究室.
黄武達 1996b. 『日治時代（1895-1945）台湾近代都市計画之研究、論文集(2)付図』台湾都市史研究室.
小林茂 2009. 「解説」『「外邦測量沿革史 草稿」解説・総目次』不二出版, 5-27.
小林茂 2011. 『外邦図—帝国日本のアジア地図』中央公論新社（中公新書）.
小林茂解説 2008a. 『外邦測量沿革史 草稿』第 1 冊、不二出版.
小林茂解説 2008b. 『外邦測量沿革史 草稿』第 2 冊、不二出版.
参謀本部編纂 1907. 『明治廿七八年日清戦史、第 7 卷・第 8 卷』東京印刷株式会社.
清水靖夫 1982. 「台湾の諸地形図について」研究紀要（立教高等学校）13: 1-23.
清水靖夫 1986. 『日本統治機関に作製にかかる朝鮮半島地形図の概要—「一万分一朝鮮地形図集成」解題』柏書房（小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会, 131-183, 2009 に加筆して掲載）
清水靖夫 2009a. 「台湾の諸地形図について」小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会, 109-130.（清水[1982]に大幅に加筆）
清水靖夫 2009b. 「日本統治機関に作製にかかる朝鮮半島地形図の概要」小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会, 131-183.（清水[1986]に大幅に加筆）
承志・杉山清彦 2006. 「明末清初マンジュ・フルン史蹟調査報告—2005 年遼寧・吉林踏査行」『滿族史研究』5: 55-84.
高木菊三郎著、藤原彰編・解説 1992. 『外邦兵要地図整備誌』不二出版.
谷屋郷子 2004. 『朝鮮半島の外邦図の作製過程』大阪大学文学部卒業論文.
南榮佑編 1996. 『旧韓末 韓半島 地形図』図書出版成地文化社.
南榮佑 2006. 『「旧韓末 韓半島 地形図」解説』『外邦図研究ニューズレター』4: 89-108.

日清・日露戦争期に臨時測図部が中国大陸で作製した地形図（大阪大学蔵）の目録

タイトル	シリーズ	測図時期	製版時期	修正等	発行時期	測図機関	製版機関	発行機関	備考
劉家隈子	二万分一得利寺近傍圖第一號(共十七面)	1905年2月	1905年5月		1905年6月1日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
張家屯	二万分一得利寺近傍圖第二號(共十七面)	1905年2月	1905年5月		1905年6月1日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
四平街	二万分一得利寺近傍圖第三號(共十七面)	1905年2月	1905年5月		1905年6月8日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
梁家屯	二万分一得利寺近傍圖第四號(共十七面)	1905年2月	1905年5月		1905年6月8日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
沙泡子	二万分一得利寺近傍圖第五號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
候家屯	二万分一得利寺近傍圖第六號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
得利寺	二万分一得利寺近傍圖第七號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
曲家店	二万分一得利寺近傍圖第八號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
炸子窑	二万分一得利寺近傍圖第九號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
孤家子	二万分一得利寺近傍圖第十號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
陳家屯	二万分一得利寺近傍圖第十一號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
金斗房	二万分一得利寺近傍圖第十二號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
三家子	二万分一得利寺近傍圖第十三號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
瓦房店	二万分一得利寺近傍圖第十四號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
趙家屯	二万分一得利寺近傍圖第十五號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
榆樹房	二万分一得利寺近傍圖第十六號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
南家屯	二万分一得利寺近傍圖第十七號(共十七面)				1905年				所蔵せず。
鄭家堡子	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第一號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
平二房	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第二號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
青寨子	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第三號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
湯池	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第四號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
高家屯	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第五號				1905年				所蔵せず。
小廟溝	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第六號	1905年2月	1905年4月		1905年5月9日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
虎庄屯	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第七號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
大石橋	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第八號	1905年2月	1905年5月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
青龍山	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第九號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
李家屯	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
沈家屯	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十一號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
方家屯	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十二號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
黃大人屯	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十三號	1895年	1905年4月	1905年2月修正増補	1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
牛心山	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十四號	1895年	1905年4月	1905年2月修正増補	1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
唐王山	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十五號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
青石関	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十六號	1895年	1905年5月	1905年2月修正増補	1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
大燧泉	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十七號	1895年	1905年4月	1905年2月修正増補	1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
牛家屯	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十八號	1905年2月	1905年4月		1905年5月9日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
唐旗堡	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第十九號	1895年	1905年4月	1905年修正増補	1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
大平山	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第二十號	1895年	1905年4月	1905年2月修正増補	1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
趙家高棚	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第二十一號	1905年2月	1905年4月		1905年5月9日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
蓋平	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第二十二號	1895年	1905年4月	1905年2月修正増補	1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
老爺廟	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第二十三號	1895年	1905年4月	1905年2月修正増補	1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
二道溝	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第二十四號	1895年	1905年4月	1905年2月修正	1905年5月9日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
胡家屯	二万分一太石橋及蓋平近傍圖第二十五號	1905年2月	1905年4月		1905年5月18日	臨時測圖部	陸地測量部	参謀本部	
松山洞	九連城近傍圖之二號東部補足圖	1904年6月	1904年7月		1904年7月25日	第一臨時築城團	陸地測量部	参謀本部	東側4分の1が空白。
加老洞	九連城近傍圖之三號東部補足圖	1904年6月	1904年7月	1904年10月修正.12月再修正	1904年7月25日	第一臨時築城團	陸地測量部	参謀本部	東側4分の1が空白。
替馬山	九連城近傍圖南方補足圖之一(推測)				1904年				所蔵せず。
虎山	九連城近傍圖一號	1894年	1895年		1896年8月28日	第一軍司令部	陸地測量部	参謀本部	
義州	九連城近傍圖二號	1894年	1895年		1895年8月28日	第一軍司令部	陸地測量部	参謀本部	「高程ハ沙河鎮河岸ノ水面ヲ五メートル假定シ米突ニテ示ス 圖式ハ明治二十七年定ムル所ノ迅速測圖原圖式ニ據ル」との記載有り。
白馬山	九連城近傍圖三號	1898年	1898年	1904年修正	1898年10月27日	大日本帝國陸地測量部		参謀本部	
新浦	九連城近傍圖南方補足圖之二	1904年10月	1904年12月		1904年12月12日	第一臨時築城團	陸地測量部	参謀本部	

大榎房	九連城近傍圖四號	1894年	1895年		1895年8月28日	第一軍司令部	陸地測量部	參謀本部	「高程ハ沙河鎮河岸ノ水面ヲ五米ト假定シ米突ニテ示ス 圖式ハ明治二十七年定ムル所ノ迅速測圖原圖式ニ據ル」との記載有り。
九連城	九連城近傍圖五號	1894年	1895年		1895年8月28日	第一軍司令部	陸地測量部	參謀本部	「高程ハ沙河鎮河岸ノ水面ヲ五米ト假定シ米突ニテ示ス 圖式ハ明治二十七年定ムル所ノ迅速測圖原圖式ニ據ル」との記載有り。
沙河鎮	九連城近傍圖六號	1894年	1898年	1904年10月修正	1898年10月27日	大日本帝國陸地測量部		參謀本部	「高程ハ沙河鎮河岸ノ水面ヲ五米ト假定シ米突ニテ示ス」との記載有り。
立岩洞	九連城近傍南方補足圖之三	1904年	1904年12月		1904年12月12日	第一臨時築城團	陸地測量部	參謀本部	
老古洞	九連城近傍七號	1904年6月	1904年7月		1904年7月4日	第一臨時築城團	陸地測量部	參謀本部	西側半分が空白。
壁柴溝	九連城近傍八號	1904年8月	1904年8月		1904年7月4日	第一臨時築城團	陸地測量部	參謀本部	北西部が空白。発行時期は誤りと思われる。
帽魁山	九連城近傍九號	1904年8月	1904年8月		1904年8月28日	第一臨時築城團	陸地測量部	參謀本部	南西部が空白。
烟台炭嶺	二万分一遼陽近傍圖第一號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
大崑	二万分一遼陽近傍圖第二號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
英守堡	二万分一遼陽近傍圖第三號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	南東部と南西部の南側半分が空白。
東烟台	二万分一遼陽近傍圖第四號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
黑英台	二万分一遼陽近傍圖第五號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
下平州	二万分一遼陽近傍圖第六號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
小屯子	二万分一遼陽近傍圖第七號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
孫家寨	二万分一遼陽近傍圖第八號				1905年				所蔵せず。
南烟台	二万分一遼陽近傍圖第九號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
張台子	二万分一遼陽近傍圖第十號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
東京陵	二万分一遼陽近傍圖第十一號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
峨嵋庄	二万分一遼陽近傍圖第十二號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
望報台	二万分一遼陽近傍圖第十三號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
河公堡	二万分一遼陽近傍圖第十四號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
修庄子	二万分一遼陽近傍圖第十五號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
遼陽	二万分一遼陽近傍圖第十六號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
早飯屯	二万分一遼陽近傍圖第十七號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
羊平勾	二万分一遼陽近傍圖第十八號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
修二堡	二万分一遼陽近傍圖第十九號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
大沙嶺	二万分一遼陽近傍圖第二十號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
蛤蜊河子	二万分一遼陽近傍圖第二十一號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
首山堡	二万分一遼陽近傍圖第二十二號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	
沙河	二万分一遼陽近傍圖第二十三號	1904年11月	1905年1月		1905年4月3日	臨時測圖部	陸地測量部	參謀本部	

地図は全てモノクロ。サイズはおおよそ46cm×58cm。

所蔵していない地図のタイトル・シリーズ・発行年は『外邦局地圖一覽圖(其一)』の二万分一得利寺近傍、遼陽近傍、大石橋及蓋平近傍、九連城近傍、遼陽近傍にもとづく。

南榮佑・李虎相 2009. 「韓国における外邦図(軍用秘図)の意義とその学術的意義」小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版会, 465-470.

野坂喜代松ほか 1944. 「明治三十七八年戦役と測量」『研究蒐録 地図』昭和19年3月号, 41-54. (小林茂・渡辺理絵解説『研究蒐録 地図、第3冊』不二出版, 41-54, 2011に再録)

藤森衣子・三崎護・中村優希・鈴江文子・後藤敦史・小林茂 2011. 「アメリカ議会図書館、手描き旅順

要塞砲台図および5千分の1地形図—解説と目録」『外邦図研究ニューズレター』8: 23-43.

細谷良夫編 1991. 『中国東北部における清朝の史跡—1986-1990年』東洋文庫中央アジア・イスラム研究室.

陸地測量部 1922. 『陸地測量部沿革誌』陸地測量部.

林春吟 2005. 「日本植民地期台湾における地形図に関する研究」『現代台湾研究』28: 1-23.